

“京都という街の景観に、一体化する家をデザインする”

厳しい条件をクリアする専門技術者集団。

間口が小さく道路も狭い京都は、もともと建築に厳しい条件の敷地が多い街。さらに古都の美しい景観を次代へ引き継いでいくためのさまざまな規制もあり、歴史都市・京都のまちなかでの建築には、一層の方法や手段が要求されます。

ゼロホームの専門技術者たちは、これらの厳しい条件や規制をクリアしながらも、お客さまのご要望やあこがれを最大限に取り入れるために、あらゆるノウハウを身につけています。美しい京都の街と共に生き、街並みと一体になる家。京都の街に求められる家づくりの工夫や技術はどこにも負けません。



ゼロホームのまちなか住宅は、狭小間口、狭小敷地という厳しい条件でも、あらゆるノウハウを駆使し、個性ある美しいデザインを実現しています。

【ゼロの専門資格者】

- ◎一級建築士／13名
- ◎一級建築施工管理技士／8名
- ◎二級建築士／34名
- ◎二級建築施工技士／7名
- ◎耐震診断士／15名
- ◎不動産コンサルティングマスター／8名
- ◎宅地建物取引主任者／48名
- ◎その他、測量士、土木施工管理技士など多数

※総社員数161名(2014年10月1日現在)



「平成の京町屋 東山八坂通」 2014年1月竣工 戸建型区分所有分譲

まちなみに溶け込む、景観に配慮した家づくりを。

悠久の歴史に育まれ、世界遺産や伝統的な京町家があちこちに点在する京都の街。その優美な景観は、地元だけでなく日本全国、さらには世界中の人びとからも愛されています。

そんな京都ならではの景観を保全するために、京都市では地区ごとに建物の形や材料、色彩などのデザインに基準を設けています。伝統ある京町家が多く残る「美観地区」、緑豊かな山々や山裾に住宅地が広がる「風致地区」など、指定された地区で新たに家をつくるには、このデザイン基準に適合した建物を建築しなければなりません。



東山の風致地区で取り組んだ今熊野の分譲地。自然や街の景観に溶け込み、風情ある街並みとなりました。

京町家の知恵と現代の技術を融合する、「平成の京町家」。

伝統的な京町家は、風や太陽、木々の緑といった自然の恵みを活かし、人や街との絆を紡ぎながら豊かな文化を育んできました。

京都市が普及を進める「平成の京町家」は、通風の確保や自然素材の利用、地域とのつながりを特徴とする「京町家」と、断熱性や省エネ設備、耐震性を期待できる「現代技術」、この両方の魅力を共に享受する住まいです。ゼロホームでは、行政や専門機関と連携しながら、「華り宮 嵯峨二尊院」「東山八坂通」など、「平成の京町家」の街並みを実現し、京都型省エネ住宅の開発と普及に貢献しています。



歴史的景観を受け継ぐ新しい手法を取り入れ、風光明媚な嵯峨二尊院の地に「平成の京町家」の街並みが誕生しました。

